

5年 道徳

思いやり・親切

番組名 「ココロ部！」

放送回 第1回 バスで考える

実践者 北海道札幌市立真駒内公園小学校 教諭 小森 量平

問題場面を分かりやすく描き、主人公が葛藤する様子から、「自分ならどうするか」道徳的な判断について考えることができる番組です。

番組の使い方

活用のねらい

具体的な場面設定や問題となっていることを映像と音声で視覚的に捉えさせることで、意欲的な話し合い活動を展開したい。主人公の葛藤に共感させながら、誰を乗せるかという答えを出すのではなく、相手の立場になって考えることが大切だということに気付かせたい。

具体的な手立て

- 思いやりについての学習だということを伝えてから番組を視聴。
- 番組を途中で止め、自分なら6人の中から3人誰を選ぶのか、理由と合わせてワークシートに記入させた。

コジマくんが3人選んだ時点で番組を停止し、自分なら誰を選ぶのか、理由も含めて考えさせ、全体で交流させた。その後、続きを視聴し、考え方が変わった子の意見などを交流させた。話し合いをしていく中で、「相手の立場になる」ことが大切だということに気付かせた。

授業の概要（1時間扱い）

本時の目標

相手の気持ちや立場を考えて、自分が今どうするべきか判断する力を養う。

思いやりとは何かについて交流する（5分）

- 全体で思いやりについて思うことを交流する。
- 今まで学習してきた思いやりについて思い出す。

番組視聴（4分05秒）

具体的な場面を通して考える。（10分）

- 自分ならどの3人を選ぶか理由も含めて考える。考えをワークシートに記入し、全体で交流する。

番組視聴（残り5分55秒）

全体交流（15分）

- 「相手の立場になって」という視点を得た後、考えが変わった子を中心に全体交流する。

感想記述（5分）

- 番組視聴や友達との交流から感じたことをワークシートに記入する。

生き生きと学ぶ子どもの姿

みんなが理解し、意欲的に

番組のドラマ性に興味をもち、真剣な眼差しで視聴している姿が見られ、多くの子が問題場面を理解することができていた。

番組活用で話し合いを活性化

だれを選ぶか、「僕ならね・・・」と自分事として考えていた。自分の思いがはっきりしているため、友達の意見に対し、賛成・反対の立場を明らかにして活発な話し合いが展開された。

映像で「見た目」や「表情」をつかむ

「見た目で判断しない」「表情や話から、相手の事情をよく考える」という視点をもち、思いやりについて考えが深まった。

日常生活につながる学び

「同じような場面で悩むことがあったら、この勉強を生かしたい」という前向きな感想をもった子が多くいた。

指導を終えて

読み物資料よりも具体的な場面を思い浮かべやすい児童が多く、番組を活用することで多くの子が話し合いに参加することができた。番組の後半を視聴した後の話し合いでは、「あらゆる可能性を考えて」という言葉に刺激を受け、相手の気持ちや事情を配慮することの大切さに気付いた子が多くいた。

